



No.44

2021.4.

「日の出の森・支える会」は、東京都西多摩郡日の出町にある巨大な処分場が引き起こした環境汚染から、自分たちの生命・健康を守るとともに、ごみ問題の真の解決を願って立ち上がった地元住民運動を支援することを目的として、1994年に発足しました。

環境学に見識のある議員に投票を

瀬戸昌之（支える会代表）

政治に求められていることは環境の破壊と貧富の差の拡大を抑制することである。そのために、「良いことには減税、悪いことには増税」の視点から環境政策を評価することである。しかるに現実の政治がやっていることは真逆ではないか。

環境学に見識がないと、環境政策をどうしたら良いかわからずに戸惑ふことになる。以下のような議員が多すぎないか。

地下水をめぐる水文学に見識のない議員は中山間地へのごみ埋め立てがなぜ環境破壊なのかが理解できない。

農山地はコメや材木を生産しているだけではない。水害防止や土砂流亡などの国土保全の公益的価値も生産している。この公益的価値に無知な政治家は農山村の活性化の重要性にも無知である。地方創生大臣こそ政治家の本領を發揮する好機であるのに、あろうことか、地方創生大臣に任命されると、閑職に任命されたと落ちこんでいる。

「日本は温暖化をどのように防ぐのか」の記者団質問に、小泉環境大臣は“Reduce (へらす)”と答えた。“How (どうやって)?”と

聞かれて、“………〈沈黙〉”で終ってしまう。 “How”に対して、日本の環境政策を多いに語るべきところが、環境学に見識がないと“………〈沈黙〉”で終ってしまう。なお、彼に限らず、日本の最近の環境大臣の見識の無さには唖然としてしまう。

与党議員には環境学の高い見識は期待できない。彼らは環境保全は経済発展を阻害すると考えているからである。野党の価値はこの誤りを指摘することにあるが、野党は環境学の重要性を自覚しているであろうか。

環境学への見識を高めることは特別なことではない。身近な問い合わせからはじめて、「持続的で公正」を共有すべき条件として議論すればよい。また、生態系の保全をつうじて、農山村を活性化し、ひいては都市の安全強化、温暖化防止などに寄与する政策について、質の高い環境学者に耳を傾けまた議論すればよい。

政治に求められていることは持続的で公正な環境政策が語れる野党議員の活躍である。

【連絡先】〒190-0011 東京都立川市高松町 2-19-1
ホームページ : <http://hinodenomori.main.jp>

Tel/Fax 042-523-7297

E-mail : hinodenomori@tokyo.email.ne.jp